

携帯型点字メモ機

Orbit20

取扱説明書



本書は、Orbit20 の取扱説明書です。

目次

第 1 章	導入	3	
	第 1 節	ごあいさつ	3
	第 2 節	制限事項	3
	第 3 節	保証について	3
	第 4 節	安全上のご注意	5
	第 5 節	ユーザー登録	8
	第 6 節	サポートについて	8
第 2 章	各部の名称	9	
	第 1 節	背面	9
	第 2 節	上面に配置されたキー	10
	第 3 節	点字のマスと表示移動キー	11
第 3 章	読みモード	12	
	第 1 節	電源投入	12
	第 2 節	モード切替	12
	第 3 節	読み方	12
	第 4 節	表示移動操作一覧	13
	第 5 節	高度な表示移動	14
	第 6 節	編集モードへの移行	15
	第 7 節	入力ボックス内での操作	16
第 4 章	ファイルモード	17	
	第 1 節	ファイル一覧	17
	第 2 節	設定メニュー	18
	第 3 節	ファイル操作	18
	第 4 節	重複ファイル名対策	21

第 5 章	編集モード	22
第 1 節	モードの移行	22
第 2 節	編集キー	22
第 3 節	カーソル移動	23
第 4 節	編集メニュー	24
第 6 章	設定メニュー	25
第 1 節	設定メニューの呼び出し	25
第 2 節	バッテリー	26
第 3 節	カーソルの点滅	26
第 4 節	ソート	26
第 5 節	単語分割	27
第 6 節	7 の点フィルタリング	27
第 7 節	点字レイアウト調整	27
第 8 節	スペース短縮	27
第 9 節	文字コード	28
第 10 節	バージョンとシリアルナンバー	28
第 11 節	出荷時の設定に戻す	28
第 12 節	モード	29
第 7 章	VoiceOver と使う	30
第 1 節	VoiceOver との接続	30
第 2 節	VoiceOver の情報を Orbit で読む	33
第 3 節	Orbit 側から VoiceOver を操作する	34
第 4 節	Orbit のキーボードを使って VoiceOver でデータを入力する	38
第 5 節	Orbit と iPhone で電話をかける	40

第 1 章. 導入

第 1 節. ごあいさつ

Orbit 20 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本機は、米国 Orbit Research 社が、多くの視覚障害関係者の協力を得て、「極力安価で世界中の視覚障害者に提供する」ことをモットーに開発した機器です。

アメディアでは、その日本向けローカライズを担当しています。

コストを最小限に抑えているため、いくつかの制限事項があります。その点をご了解の上、ご使用ください。

2018 年 7 月 1 日 株式会社アメディア 代表取締役 望月優

第 2 節. 制限事項

1. 接続制限

現在、本機は、パソコンと接続しても、日本語環境で使用できるスクリーンリーダーがありません。

そこで、標準添付の USB ケーブルは充電専用になっています。

ファームウェアのアップデート等でパソコンと接続するときには、別売のデータ転送用 USB ケーブルをご利用ください。

2. ファイル名の制限

ファイル名は基本的にアルファベットで記述ください。

日本語点字でファイル名を書くと、「か き さ す よ 5 の点」など、多くの文字がファイル名として使えない記号とバッティングしてしまい、その文字は「4・5・6 の点」に変換されます。

3. SD カードの容量制限

本機の文章は、すべて SD カードに保存されます。

本機で使える SD カードは、最大 32GB までです。

それ以上の容量の SD カードは使用できません。

4. 本書の制限

本日本語取扱説明書では、アメディアで動作確認した機能を掲載しています。

米国のサイトでの情報はさらに充実していますが、英語ホームページに書かれていることでも、日本の環境ではできないことが多々あります。

日本における最新の情報は、アメディアサイト内で随時更新して参りますので、そちらをご覧ください。

第 3 節. 保証について

本機の保証期間は、ご購入後 1 年間です。

保証期間中は、お客様にご使用上の不手際がない限り、無償で修理致します。

弊社の保証の範囲は、いかなる場合でも、本機のご購入価格を上限とさせていただきます。

第 4 節. 安全上のご注意

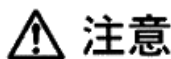
- ◎お使いになる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ◎ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

【 警告表示 】

この表示の注意事項は、火災や感電などの大きな事故の原因をもたらさないための非常に重要な内容です。



注意事項に従っていただけない場合には、火災や感電などのけがや死亡につながる事故を誘発する恐れがございますので、くれぐれも守って頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故により、けがをしたり周囲の家財に損害を与えたりすることがあります。

【 行為禁止記号 】



禁止



分解禁止



水濡れ禁止



強制



接触禁止

以下の注意事項を守っていただけなかったときは、保証の範囲外となります。また、備品の紛失も保証の範囲外です。

危険

・水をかけたり、濡らさないでください。

水がかかる場所（浴室や台所など）で使ったり、ジュース類等の飲み物がこぼれて内部に水が入ると、火災や感電の原因になります。



・指定以外の接続ケーブルはお使いにならないでください。

指定以外の接続ケーブルをお使いになると、火災や感電の原因となり、また機器が故障します。



・雷が鳴りだしたら、本機を充電もとから切り離してください。

コンセントがつながっている状態で落雷にあうと、感電の原因となります。



・分解、改造しないでください。

内部に異物が入ると、故障や火災・感電の原因となります。点検や修理はアマメディアにご依頼ください。



注意

・落下させないでください。

高い所などから落ちた場合、破損する恐れがあります。又、破損時の破片などで、人体に傷害を与えることがあります。



・衝撃を与えないでください。

精密電子機器ですので、衝撃を与えると機能が失われることがあります。



・上から強く押したり、上に重いものをのせないでください。

上から圧力を加えたり、重いものをのせると破損する恐れがあります。



・日当たりのよい場所に放置しないでください。

故障の原因になります。



本機の故障や不具合などにより、発生したデータの消去など、付随的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

第 5 節. ユーザー登録

同梱の保証書兼ユーザー登録カードの内容に従って、ユーザー登録をお願いします。

ユーザー登録がされていないと、本機のファームウェアがバージョンアップされたり、新たなサービスが開始された時など、お客様にアメディアからの情報が届かなくなります。ユーザー登録は、お電話または以下のホームページからできます。

<http://www.amedia.co.jp/product/usercard.html>

第 6 節. サポートについて

本機のサポートに関しては、メーリングリストによるユーザー同士による相互サポートの場をご利用ください。

また、アメディアのウェブサイトにて、詳細な情報を公開しておりますので、そちらもご参考ください。

標準パックの方には、電話やメールでのご質問にお答えする個別サポートがご利用になれます。

このサポート期間は、ご購入後 2 か月間です。

個別サポートは、別途ご購入いただくこともできます。

第 2 章. 各部の名称

点字キーが並んでいる面を上にして、点字マスのある部分を手前においた状態で説明します。

第 1 節. 背面

背面の左側がくぼんでおり、ここに 3 つの重要なボタンや端子が並んでいます。

1. 電源ボタン

一番左側の小さな突起が電源ボタンです。

長く押し続けていると、電源が入ります。

電源を切るときも、このボタンを長押しします。

電源を入れるときは、点字が表示されるまで、このボタンを押し続けてください。

なお、使用中にこのボタンを短く押すと、スリープ状態に入り、バッテリーが節約されます。

スリープ状態からは、このボタンを短く押すだけで復帰できます。

2. SD カード接続口

電源ボタンの右側の隙間が、SD カードをセットするための接続口です。

Orbit を単体で使用するときは、必ず SD カードをセットしてください。

ファイルの読み書きは SD カードから行われますので、セットしていない状態では何もできません。

SD カードは、ギザギザのある面を下にして、斜めにカットされた角を左手前にして後ろから差し込みます。ゆっくり押し込むと、「カチッ」という感覚で固定されます。外すときは、SD カードを一度奥に押し込むとロックが外れて引き出せるようになります。

3. USB 接続口

SD カードの口の右隣に、USB 接続口があります。

USB の接続は、充電するときに必須となります。

また、パソコンと情報のやり取りをするときにも使用されます。

小さい方の USB 端子を、2 つの突起がある面を下にして差し込みます。

第 2 節. 上面に配置されたキー

1. 点字キー

奥側に並んでいる 6 つのキーが、パーキンス配列の点字キーです。

左側から、3 の点、2 の点、1 の点、4 の点、5 の点、6 の点です。

手前に 3 つのキーが並んでいます。

真ん中の横長のキーが、スペースキーです。

左側のキーが 7 の点、このキーは、バックスペースの役割を担います。

右側のキーは 8 の点、このキーは、エンターキーの役割を担います。

2. 矢印キーとセレクトキー

Orbit のほぼ中央に、丸いキーを真ん中にして、左右・上下に小さな細長いキーがあります。

真ん中の丸いキーは、本取扱説明書の中では「セレクトキー」と呼んでいます。いろいろな用途で使われるキーです。左右・上下のキーは、本取扱説明書の中では、それぞれ、左キー、右キー、上キー、下キーと呼んでいます。それぞれのイメージに見合った操作が割り当てられています。

第3節. 点字のマスと表示移動キー

1. 点字のマス

手前に並んでいるのが点字のマスです。

20 マスの表示部があり、5 マス目、10 マス目、15 マス目の位置を、奥にある小さな突起で示しています。

2. 表示移動キー

点字のマスの両側に、真ん中が少しくぼんだ縦長のキーがあります。

よく触ると、真ん中でくびれていて、上下に分かれています。

このキーは、点字表示を移動させるキーです。

上のキーを押すと、前の 20 マスの表示になります。

下のキーを押すと、次の 20 マスの表示になります。

原則として、左右とも同じ機能です。

右利きの方は右側を、左利きの方は左側をご利用ください。

第 3 章. 読みモード

第 1 節. 電源投入

SDカードをセットしてOrbit の電源を入れると、初めて電源を入れたときは、SD カード上のファイルの一覧を表示します。2 回目以後は、前回の状態で起動します。「前回の状態」とは、読みモード、編集モードまたはファイル・モードの場合があります。

第 2 節. モード切替

ファイル・モードでは、上下のキーでファイルの一覧から開きたいファイルを選び、8 の点またはセレクトキーでファイルを開きます。読みモードからファイル・モードに移行するときは、7 の点を押します。

第 3 節. 読み方

ファイルの中身を読み進んでいくのには、点字表示部の左右にある表示移動キーを使います。左右とも同じ動作で、下側を押せば次の 20 マス表示、上側を押せば前の 20 マスを表示します。

第 4 節. 表示移動操作一覧

表示を前後に移動	表示移動キー
表示を 1 文字左へ	左キーまたは スペース + 3 の点
表示を 1 文字右へ	右キーまたは スペース + 6 の点
表示を 1 単語左へ	スペース + 左キー または スペース + 2 の点
表示を 1 単語右へ	スペース + 右キー または スペース + 5 の点
表示を 1 行上へ	上キー または スペース + 1 の点
表示を 1 行下へ	下キー または スペース + 4 の点
前のページへ	3 の点
次のページへ	6 の点

備考: ページ区切りがないときは、上記の操作で 1000 マス分移動します。

ファイルの先頭へ	1 の点 または スペース + に(1・2・3 の点)
ファイルの最後へ	4 の点 または スペース + 4・5・6 の点
ファイル・モードへ	7 の点
設定メニューを開く	セレクトキー + 上キー
設定メニューから戻る	7 の点

第 5 節. 高度な表示移動

しおりの設定と解除	スペース + m
-----------	----------

すでにしおりのあるところで上記の操作を行うと、そのしおりは解除されます。

前のしおり位置へ	2 の点
次のしおり位置へ	5 の点

しおり位置が表示マスの先頭にきます。しおりがないときは、「しおりはもうありません」と表示されます。

ブロック中間移動前へ	8 の点 + 上キー
ブロック中間移動後へ	8 の点 + 下キー

備考: 「ブロック中間移動」とは、次の起点の中間まで移動する方法です。

ファイルの先頭から「後へ」を実行すると、ファイルの真ん中に移動、そこから「前へ」を実行すると、ファイルの先頭から4分の1に移動。このようにして、領域を絞り込みながら自分の探したい内容を見つける方法です。

ブロック中間移動を実行すると、行頭に「〇〇<」と表示され、最初の操作実行地点から何パーセントの位置に移動したのかを示します。

検索	スペース + f
----	----------

入力ボックスが開きます。

検索文字を入力して、8 の点を押すと、検索が行われます。検索しないで入力ボックスを閉じるときは、セレクトキーを押します。

前を検索	8 の点 + 左キー
次を検索	8 の点 + 右キー

上記 2 つの操作は、直前に検索した文字列で続行検索をする操作です。

文字が見つからないときは、「見つかりません」と表示します。

この表示を消すには、7 の点を押します。

見つからないときは、位置は動きません。

第 6 節. 編集モードへの移行

編集モードに入る	スペース + e
----------	----------

現在読んでいるファイルを表示したまま、編集モードに移行します。

新規ファイル作成	スペース + n
----------	----------

新しいファイルを開いて、編集モードに入ります。

前回編集ファイルを開く	スペース + け
-------------	----------

直前に編集していたファイルを再び開きます。

編集モードから読みモードに戻るには、セレクトキーを 2 回続けて押してください。

第 7 節. 入力ボックス内での操作

検索、ファイル名変更、フォルダ作成などのときに現れる入力ボックスは、1 行のみ入力できます。

また、入力ボックスを開いたとき、すでにつけられているファイル名や、前回入力した検索文字などが表示されます。

これを消したいときは、新たな文字を入力するか、または 7 の点を押します。

表示されている文字を生かして編集したいときは、右キー、左キーでカーソルを移動させ、7 の点でカーソルの前の文字を消したり、点字キーで新たな文字を入力したりして編集します。

以下、操作コマンドです。

カーソルを 1 マス左へ	左キー
カーソルを 1 マス右へ	右キー
カーソルを入力ボックスの先頭へ	上キー
カーソルを入力ボックスの最後へ	下キー
バックスペース	7 の点
確定	8 の点
キャンセルして入力ボックスを閉じる	セレクトキー

備考: ファイル名変更及びフォルダ作成の操作は、ファイル・モードから行います。

第 4 章. ファイル・モード

Orbit を単体で使うときは、SD カードが必ず必要です。ユーザーが読みだり書いたりする情報は、すべて SD カードに保存されます。

単体利用のモードは、以下の 4 種類です。

- ファイル・モード
- 設定メニュー
- 読みモード
- 編集モード

第 1 節. ファイル一覧

ファイルが保存された SD カードをセットして、Orbit の電源を入れると、電源を切ったときの状態で起動します。

読みモードで起動したときは、7 の点を押すと、ファイル一覧状態になります。

7 の点はファイル一覧状態ではパソコンのバックスペースキーと同じように、サブフォルダ内から 1 つ上の階層に上がります。

ファイル一覧状態では、上または下のキーで一覧内を移動できます。一覧状態から、8 の点またはセレクトキーでそのファイルまたはフォルダを開きます。

右キーまたは左キーで、ファイルサイズや作成日付などのそのファイルに関する項目を見ることができます。

ファイル属性項目を見ているときに 7 の点を押すと、ファイル名の位置に戻ります。

第 2 節. 設定メニュー

セレクトキーを押しながら上キーを押すと、設定メニューが開きます。メニュー表示状態で、上下のキーで前後の項目に移動できます。

なお、設定メニューの内容については、第 6 章を参照ください。

第 3 節. ファイル操作

新規ファイル作成	スペース + n
----------	----------

新規ファイルを作成して、編集モードになります。
編集モードから抜けるには、セレクトを 2 回押します。

新規フォルダ作成	スペース + o
----------	----------

フォルダ名を入力するボックスが開きます。フォルダ名を入力して 8 の点を押すと、フォルダが作成され、ファイル・モードに戻ります。
フォルダを作成したくないときは、セレクトキーを押して抜けてください。

ファイルまたはフォルダの削除	スペース + d
----------------	----------

選択されているファイルやフォルダを削除します。
フォルダは、空のもののみ削除します。
削除前に「動作確認」という確認メッセージが表示されます。
8 の点またはセレクトキーで実行、7 の点でキャンセルします。

ファイル名またはフォルダ名変更	スペース + r
-----------------	----------

現在のファイル名またはフォルダ名を表示して編集ボックスが開きます。

書き換えて 8 の点を押すと、変更されます。

セレクトキーを押すと、変更せずに戻ります。

ファイルの切取	スペース + x
---------	----------

選択されたファイルを、クリップボードに切り取ります。

ファイルは削除されます。

ファイルのコピー	スペース + c
----------	----------

選択されたファイルを、クリップボードにコピーします。

ファイルは、削除されません。

ファイルの貼り付け	スペース + v
-----------	----------

クリップボードのファイルを、現在の位置に貼り付けます。

クリップボードにファイルやフォルダがないときは、何も行われません。

ファイルをマーク	スペース + m
----------	----------

複数のファイルをまとめて処理したいとき、この方法でファイルに選択マークをつけて、削除、切取、コピーなどの一括処理の前準備をします。

マークの解除	スペース + m
--------	----------

一度つけた選択マークを解除します。

選択マークは、ファイル名の先頭マスの 7・8 の点が浮き出すことで表現されます。

ファイルプロテクトの設定と解除	スペース + p
-----------------	----------

ファイルにプロテクトをかけるあるいは、プロテクトを外す操作です。

ファイルのプロテクト状態は、ファイル名が表示されている状態で、右キーを押して確認できます。

編集モードに入る	スペース + e
----------	----------

現在表示しているファイルの編集状態に入ります。

文字が入力される位置を示すカーソルは、7・8 の点で示しています。

編集モードから抜けるには、セレクトキーを 2 回押します。

前回編集していたファイルを編集モードで開く	スペース + 1・2・4・6 の点
-----------------------	-------------------

直前に編集していたファイルを開きます。

セレクトキーを 2 回押すことで、ファイル・モードに戻ります。

先頭のファイルへ	スペース + 1 (1・2・3 の点)
----------	---------------------

最後のファイルへ	スペース + 4・5・6 の点
----------	-----------------

ファイル名の先頭文字による検索機能あり。

第 4 節. 重複ファイル名対策

ファイルをコピーする際、コピー先のフォルダ内に同じ名前のファイルがあったとき、もともとのファイル名は変更せずに、新たにコピーされるファイル名のボディに数値が付加されます。

例:

book.brf

が存在するフォルダに、同じ名前のファイルをコピーしようとしたとき、

コピーされたファイル名は、book1.brf

に変更されます。

第 5 章. 編集モード

第 1 節. モードの移行

読みモードから編集モードに入る	スペース + e
編集モードから読みモードに戻る	セレクトキーを 2 回

備考: 読みモードからファイル・モードに移行するときは、バックスペースキーを押します。

第 2 節. 編集キー

表面奥よりに並ぶ 6 つのキーが、パーキンス配列の 6 点キーです。

左から、

3 の点、2 の点、1 の点

2 センチほど空いて、

4 の点、5 の点、6 の点と並びます。

点字表示部のすぐ奥に並ぶ 3 つのキーは、

真ん中がスペースキー、左が 7 の点、右が 8 の点です。

8 の点は改行、

7 の点はバックスペースの役割となります。

セレクトキーを 2 回押すと、編集モードを終了して読みモードになります。

第 3 節. カーソル移動

1 文字前へ	左キー
1 文字後へ	右キー
1 単語左へ	スペース + 左キー
1 単語右へ	スペース + 右キー
20 マス左シフト	表示移動キー上
20 マス右シフト	表示移動キー下
1 段落前へ	上キー
1 段落後へ	下キー
現在段落の先頭へ	スペース + 7 の点 + 左キー
現在段落の末尾へ	スペース + 7 の点 + 右キー
前のページへ	スペース + 7 の点 + 上キー
次のページへ	スペース + 7 の点 + 下キー

第 4 節. 編集メニュー

セレクトキーを押すと、編集に関する選択メニューが現れます。

このメニューの状態、上下キーでいくつかの編集操作を選択できます。

また、編集メニューが表示されている状態で、点字 1 マスのショートカットでその操作を実行できます。

以下、操作内容とショートカットの一覧です。

編集モード終了 e	編集モードを終了して、読みモードに移行します。
マークをつける m	以下のコピーまたは切取を行うときは、カーソル位置とマークの間が操作対象ブロックになります。
コピー c	マークとカーソルの間のブロックを、クリップボードにコピーします。
貼り付け v	クリップボードの内容を、カーソル位置に貼り付けます。
切り取り x	マークとカーソルの間のブロックを、クリップボードに切り取ります。ブロックはいったん削除されます。
検索 f	検索したい文字列を入力して 8 の点を押すと、その文字列を検索します。

第 6 章. 設定メニュー

第 1 節. 設定メニューの呼び出し

Orbit には、表示項目、設定項目とコマンドを含むメニューがあります。本章では、このメニューの主な項目を説明します。そのほかの項目については、それぞれの該当箇所で説明します。

設定メニューを開くには、セレクトキーを押しながら上キーを押します。キーを離すと、メニューの最初の項目が表示されます。

次の項目を表示させるには下キーを、前の項目を表示させるには上キーを、押します。

設定メニュー項目の前後のオプションを表示させるには、左または右キーを押します。

設定メニュー項目の、現在表示中のオプションを選択するには、セレクトキーを押します。

選択中のオプションには、オプション名のマスの 7 の点と 8 の点が表示されます。

(ただし、一部、7 の点と 8 の点が表示されない場合もあります。)

設定メニューを閉じるには 7 の点を押します。

第 2 節. バッテリー

メニューの最初の項目です。バッテリーの充電状態をパーセンテージで示します。

バッテリーの状態が低くなる(10%以下になる)と、20 マス目の 8 の点がブリンクし、バッテリーの状態が低くなっていることを知らせます。

充電中の時は、左側に「充電中」と表示します。

第 3 節. カーソルの点滅

エディットボックスまたは編集モードを使っているときにカーソルが点滅する時間間隔を、秒単位で設定・表示します。

選択中の値を表示するときは 7 の点と 8 の点も表示します。オプションは、「0」「1」「5」「15」「30」と「60」です。

お好みに合わせてください。

0 秒に設定すると、カーソルが点滅しないだけで、カーソルが 7 と 8 の点で示されます。

カーソルが点滅するとうるさいと感じたら、0 に設定することをお勧めします。

第 4 節. ソート

SD カード上のファイルの表示の順序を表示・設定します。

オプションは「名前」、「日時」、「サイズ」と「アクセス日時」です。

第 5 節. 単語分裂

点字行の最後に表示しようとしている単語の全ての文字が入らないときは、その単語の一部を表示するかどうかを表示・設定します。オプションは「ON」と「OFF」です。

第 6 節. 7の点フィルタリング

NABCC コードのファイルの 7 の点をフィルタリングできます。デフォルトは ON ですが、それらの形式のファイルでよく現れる 7 の点を表示させたいときは OFF に変更してください。ただし、ON にしても、点字ファイル形式によっては、7 の点が消えない場合もあります。

第 7 節. 点字レイアウト調整

デフォルトは ON です。ON の場合は、印刷用の点字ファイルの改行コードが無視され、Orbit で読みやすくなるように、レイアウトが変更されます。OFF にすると、点字印刷用の例えば 38 目の改行コードの入ったレイアウトで出力されます。

第 8 節. スペース短縮

デフォルトは ON です。ON の場合、複数のタブコード、改行コードとスペースを一つに変更するので、空白が省略され、読みやすくなります。

第 9 節. 文字コード

ファイルを保存する際の文字コードを設定・表示します。オプションは、ANSIとUnicodeです。Unicodeとして3つの形式があります(リトルエンディアン、ビッグエンディアンとUTF-8)。

ファイルを作成する際にこのオプションが使用されます。既に存在するファイルの文字コードを変更できません。NABCCコードでファイルを作成する際には、ANSIをお使いください。

第 10 節. バージョンとシリアルナンバー

バージョンとシリアルナンバーの項目は、それぞれ本機のソフトウェアのバージョンとシリアル番号を表示します。

第 11 節. 出荷時の設定に戻す

セレクトキーを押すと、出荷時の設定に戻ります。

第 12 節. モード

Orbit の動作モードを表示・設定します。

- 単体モード（ほかのデバイスと接続せずに使用するモード）
- Bluetooth モード（Bluetooth を通じてほかのデバイスと接続して使用するモード）
- USB モード（USB でほかのデバイスと接続して使用するモード）

の 3 つのモードがあります。

第 7 章. VoiceOver と使う

Orbit を VoiceOver と使って、iPhone や iPad などが表示する情報を点字で読んだり、Orbit のキーボードでデータを入力することができます。

本書では、VoiceOver との接続方法、VoiceOver が出力する情報を読む方法、Orbit で VoiceOver を操作する方法、VoiceOver にデータを入力する方法と Orbit と iPhone で電話をかける方法を説明します。

お断り: VoiceOver のバージョン及び Orbit のファームウェアバージョンの組み合わせによっては、ここに記載する操作の一部ができないことがあります。

第 1 節. VoiceOver との接続

Orbit を VoiceOver と使うには、Bluetooth を通じて接続する必要があります。初回は、以下の手順で接続してください。2回目以降は自動的に接続されます。接続に不具合が起きたら、本節の接続手順と設定を、もう1度ご確認ください。

- A. Orbit をつけます。
- B. メニューを開き、Bluetooth が ON になっていることを確認します。もし OFF になっていたら、右キーを 1 回押してから、セレクトキーを押してください。

- C. メニューが表示されている状態で下キーを1回押し、ペアリングモードを確認します。「自動」になっていると、ペアリングは簡単ですが、セキュリティの理由で、「コード」に設定することをお勧めします。
「コード」に設定すると、最初にペアリングしようとするときにOrbitとiPhoneの画面にある数字が表示され、その数字が一致していることを、Orbit側とiPhone側で確認しなければなりません。2回目以降は、ペアリングは自動的に行われます。
- D. 下キーを1回押し、エミュレーションがOFFになっていることを確認します。ONになっていたら、OFFにしてください。
- E. 下キーを1回押し、モードを確認します。右キーを使って「Bluetoothモード」が表示されるようにしてから、セレクトキーを押します。すると、遠隔Bluetoothが表示されます。スペースキー4の点と7の点を同時に押すことによっても、Bluetoothモードにすることができます。
- F. iPhone(またはiPadなど)をつけます。iOS 10.3.3で説明しています。もし接続ができず、あるいは、本取扱説明書とインターフェースが違ったら、まず、バックアップを取ってから、システムをアップデートしてください。
iOSのバージョンが10.1以下の場合には、エミュレーションモードをONにする必要があります。
- G. 画面のロックを解除します。

- H. 「設定」を開き、順に「一般」「アクセシビリティ」「VoiceOver」「点字」に入ります。
- I. もし iPhone(または iPad など)の設定で Bluetooth が OFF になっていたら、Bluetooth を ON にするかどうかを聞いてくるので「はい」ボタンを押します。こうすると、自動的に Bluetooth の設定を変更してくれます。
- J. 「点字」に入るといろいろな設定が表示されます。その中で、次の設定項目を確認します。
- K. 点字ディスプレイ出力も点字ディスプレイ入力も「8 点式」になっていなければ「8 点式」に変更します。変更するには、項目を 2 回タップします。こうすると「1 級英語点字 6 点式」「1 級英語点字 8 点式」「2 級英語点字」が表示されるので「1 級英語点字 8 点式」を選択して「点字」に戻ってください。日本語で使う場合は「2 級英語点字」を設定しないでください。
- L. 「状況セル」と「Nemes コードの使用」は OFF のままでいいと思います。iPhone などの画面から文字を入力しない場合は、オンスクリーンキーボードも OFF のままでいいです。
- M. 上記の画面の最後の「点字ディスプレイを選択」で Orbit が現れず、いくら待っても「進行中」と表示されていれば、Orbit がついていることを確認してください。iPhone などの準備に長い時間がかかると、Orbit が消えます。ついたら、もう一度 Bluetooth モードにしてください。すると、iPhone などの画面に Orbit とそのシリアルナンバーが表

示され「ペアリングされていません」というボタンが現れます。

- N. Orbit のシリアル番号などを示しているボタンをダブルタップします。少し待つと、Orbit が一定の数字を表示します。速くその数字を確認しないと、ペアリングが失敗します。またそのままにしておくと、約 1 分後に Orbit の電源が切れてしまいます。
- O. コードの確認。Orbit が表示している数字を読み、iPhone などの画面のピンが読まれるようにします。コードが一致したら、すぐに Orbit の 8 の点を押し、iPhone などの側でも「ペアリング」をダブルタップします。
- P. Orbit Reader ... 接続中と表示されたら、ペアリングは完了です。

第 2 節. VoiceOver の情報を Orbit で読む

ペアリングが完了すると、VoiceOver が発声する内容は Orbit 上でも表示されます。内容が点字の 20 マスで表示できないときは、Orbit の行を上下にスクロールさせることによって全体の内容を読むことができます。

ただ、例えば「開くにはダブルタップします」などという、コマンドの実行方法の説明もアナウンスするように設定されていると、Orbit の表示は、コマンド名、コマンド説明、コマンド名の順に、速く変わってしまいます。この状態で Orbit の行を上下にスクロールさせようとすると、その操作は VoiceOver に転送され、選択中のコマンドが変わってしまいます。

この問題を防止するには、「設定」「一般」「アクセシビリティ」「VoiceOver」「詳細度」に入り「ヒントを読み上げる」を OFF にすることができます。ヒントは役に立つこともあるので、よく検討してから決めてください。

ヒントを読み上げないようにした状態では、Orbit の行を上下にスクロールさせたときに、予想外の操作が行われませんが、例えばメニューを下から上に、Orbit の側でスクロールして表示させると、スキップされるコンテンツが出る場合があります。例えば、「ミュージック」「メール」と、Orbit 側でスクロールすると、音声では未開封のメールの数を読み上げますが、Orbit でその情報を表示させるためには、1 回下に戻らなければなりません。

第 3 節. VoiceOver との接続

Orbit 側から VoiceOver を操作することができます。そのためには、様々なコマンドが用意されています。既に説明した通り、Orbit の現在行を変えることで、例えばメニューで現在選択されているコマンドを変更できます。Safari を選択してからセレクトキーを押すと、Safari が開き、行を変えながら、表示されるページを読むことができます。開きたいリンクの文字を表示させてセレクトキーを押すと、そのリンク先のページが開きます。

VoiceOver の画面を消すと、Orbit は単体モードに戻ります。しかし、VoiceOver が再びつくと、Orbit は Bluetooth モードに切り替わります。万一 Bluetooth モードに切り替わらず、あるいは iPhone などのデータを表示しなくなったら、ペアリングの画面の指示に従って、1 回 Orbit を忘れさせて、再びペ

アリングしてみてください。Orbit から iPhone などを起動することはできません。

以下のコマンドが用意されています。

前の項目に移動	スペースを押しながら 1 の点を押す
前の項目に移動	左キー
次の項目に移動	スペースを押しながら 4 の点を押す
次の項目に移動	右キー
点字を左に移す	スペースを押しながら 2 の点
点字を右に移す	スペースを押しながら 5 の点
最初の項目に移動	スペースキーと 1、2、3 の点を同時に押す
最後の項目に移動	スペースキーと 4、5、6 の点を同時に押す
1 ページ右移動	スペースキーと 1、3、5 の点を同時に押す
1 ページ左移動	スペースキーと 2、4、6 の点を同時に押す
ステータスバーに移動	スペースキーと s(2、3、4)を同時に押す
前のローター項目を設定	スペースキーと 2 と 3 の点を同時に押す
次のローター項目を設定	スペースキーと 5 と 6 の点を同時に押す
カレントロータ項目の上の状態を設定	スペースキーと 3 の点を同時に押す

カレントロータ項目の下の状態を設定	スペースキーと6の点を同時に押す
タスクスイッチャーを開く	スペースを押しながら、速く2回1、2と5の点を押す
前のページに移動	スペースキーと3、4、5、6の点を同時に押す
次のページに移動	スペースキーと1、4、5、6の点を同時に押す
通知センターに移動	スペースキーと4、6の点を同時に押す
コントロールセンターに移動	スペースキーと2、5の点を同時に押す
選択中の項目から表示する	スペースキーと「ち」(1、2、3と5の点)を同時に押す
トップから表示する	スペースキーと「そ」を同時に押す
現在位置、ページまたは列の番号を表示する	スペースキーと「や」を同時に押す
「バック」ボタンを押す	スペースキーと「b」を同時に押す
デリートキーを押す	スペースキーと「d」を同時に押す
デリートキーを押す	スペースキーと7の点を同時に押す

注意: 文字が消えても、Orbit の表示がすぐに更新されなかったり、Orbit が表示しなくても以前入力したデータが残ったりします。

エンターキーを押す	スペースキーと「e」を同時に押す
エンターキーを押す	スペースキーと8の点を同時に押す
点字出力を切り替える (6点式、8点式、2級英語点字)	スペースキーと「g」を同時に押す
ホームボタンを押す	スペースキーと「h」を同時に押す
スピーチをON/OFFと切り替える	スペースキーと「m」を同時に押す
タブキーを押す	スペースキーと「t」を同時に押す
コンテキストメニューを呼び出す	スペースキーと3、5、6の点を同時に押す
点字入力を切り替える (6点式、8点式、2級英語点字)	スペースキーと2、3、6の点を同時に押す
音量を上げる	スペースキーと3、4、5の点を同時に押す
音量を下げる	スペースキーと1、2、6の点を同時に押す
スクリーンカーテンをON/OFFと切り替える	スペースキーと1、2、3、4、5、6の点を同時に押す
全て選択	スペースキーと2、3、5、6の点を同時に押す
切り取り	スペースキーと「x」を同時に押す

コピー	スペースキーと「c」を同時に押す
貼り付け	スペースキーと「v」を同時に押す
入力を元に戻す	スペースキーと「z」を同時に押す
入力をやり直す	スペースキーと2、3、4、6の点を同時に押す
取り出しキーを押す	スペースキーと1、4、6の点を同時に押す
現在項目のアナウンスをトグル	スペースキーと「n」を同時に押す
キーボードヘルプ	スペースキーと「k」を同時に押す
前のコンテナーに移動	スペースキーと1、7の点を同時に押す

第4節. Orbitのキーボードを使って VoiceOverでデータを入力する

OrbitでVoiceOverにデータを入力するために、メモを書いてみましょう。

1. iPhoneをつけて、画面のロックを解除します。
2. Orbitの電源も入れます。

- Orbit との接続準備が済んでいれば、自動的につながるので、それまで数秒待ちます。その後 Orbit 側で操作します。
- スペースキーを押しながら h を押します。これで iPhone のメニューが開きます。
- 左キーや右キーで「メモ」まで移動してから、セレクトキーを押します。これでメモアプリが開きます。
- 左キーで「戻る」ボタンを捜し、セレクトキーを押します。「戻る」ボタンが出ないときまでこの手順(6 の手順)を繰り返します。スペースキーと「b」を押すことによって同じ操作ができます。
- 左キーと右キーでメモのフォルダを選んでからセレクトキーを押します。
- 右キーで「新規メモ」ボタンに移動し、セレクトキーを押します。
- 好きな文書を書きます。スペースキーを押すたびに、iPhone は以前書いた部分をアナウンスします。
- 書き終わると、右キーまたは左キーで入力モードから出ることができます。
- 左キーで「完了」ボタンを探し、セレクトキーを押します。

12. 左キーと右キーで今日の現在の時間のメモまで移動し、内容を確認します。

第 5 節. Orbit と iPhone で電話をかける

電話をかけるには、VoiceOver と Orbit がつながっている状態で、以下の手順で操作します。

1. スペースキーを押しながら h を押します。これで iPhone のメニューが開きます。
2. 左キーや右キーで「電話」まで移動してから、セレクトキーを押します。これで電話アプリが開きます。電話の以前の状態によって操作が少し違いますが、キーパッドが既に変更されているとします。
3. 左キーと右キーで各数字を選択できるので、必要に合わせて一つ一つを選んだあとにセレクトキーで入力します。一つ間違えるときは、「削除」ボタンを選択しセレクトキーを押すと、最後の数字を削除できます。
4. 左キーで「電話番号」のテキストフィールドまで移動し、電話番号を確認します。
5. 右キーで「発信」ボタンに移動し、セレクトキーを押します。すると、電話がかかります。
6. 自動的に「通話終了」ボタンが選択されるので、セレクトキーを押すだけで、電話を切ることができます。

Orbit20 取扱説明書

2018 年 7 月版

株式会社アメディア

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 1-15-6 第 10 秋山ビル 1 階

電話. 03-6915-8597 FAX. 03-3994-7177

<http://www.amedia.co.jp/>

AMEDIA